Ⅱ．部門報告

先駆的学習支援部門

平澤則子、境原三津夫、山田正実、後田穣、野口裕子、石岡幸恵、大﨑麻美

先駆的学習支援部門は、看護・医療・福祉分野の研究や実践に関する新しい知見やトピックスについて著名な学識者あるいは先駆的な活動を行っている実践者を招き、公開講座やシンポジウムを開催することにより、地域住民の方々に学習の機会を提供している。平成 27 年度は「市民公開講座」と上越教育大学との連携事業である「看護大・上教大連携公開講座」を開催した。

Ⅰ　市民公開講座

テーマ　　ネット依存症　～インターネット使用障害の現状と対処～
日　時　　平成 27 年 10 月 23 日(金)　18:00～19:30
講　師　　中山秀紀　先生
　　独立行政法人国立病院機構　久里浜医療センター　医師

講師紹介

医学博士、精神保健指定医、精神科専門医であり、専門領域は臨床精神医学およびアルコール依存症である。研究では、日本アルコール・薬物医学会優秀演題賞を受賞されている。当医療センターには 2010 年から勤務され、ネット依存に関わる診療では、2011 年 7 月にネット依存治療研究部門が開設した当初から診療を担当されている。

講義内容　　現在日本では、多くの人がインターネットを利用している。休日になると、中高生ではインターネットを 5 時間以上使用する割合が、平日より増加する。こうしたインターネットに依存する背景には、以前のゲームとの違い、取り巻く社会の変化がある。インターネットの問題使用・依存の特徴として、長時間の“過剰使用”、できないときにイライラする“離脱”、エスカレートしていく“耐性”、遅刻・欠席・不登校などの“悪影響”がある。合併精神疾患として、注意欠陥多動障害、社会恐怖、強迫性障害、うつ病の傾向が高いという。依存の状態は更なる不安を招きやすく、睡眠の質が落ちるといった睡眠障害を引き起こす。

ネット依存は、アルコール依存と非常に似ており、安い、手軽、依存の自覚に乏しい、確実に手に入るなどの共通点がある。ネット依存の治療は、アルコール依存症と同様、節ネット(節酒)と断ネット(断酒)になるが、断ネットは生活上現実的ではないため、節ネット、いわゆる“節度ある使用”を目標とする。ネット依存は中学生～高校生の年代に多いため、その対応や予防には教育・行政・医療・家庭が連携し、社会全体で取り組む必要がある。教育機関では、実態調査や啓発活動、学校としてのルール作り、生活の乱れの予防対策などがあり、家庭においては、若年のうちから高性能なネット機器などの本人所有は避ける、使用のルール作りなど、とくに就寝と起床時間は死守し生活のリズムを崩さないことが重要である。自分自身がルールを作成し実行することは継続されやすい。社会的な動きとして、保護者の呼びかけから始まった地域ぐるみのネット依存対策や生徒たち主体のルール作りなどの報告がある。

参加者の状況

(1)参加者　177 人

(2)アンケート結果による評価

①アンケートの回収 153 人（86.4%）

②講師の話の全体的な感想

非常に良かった	57 人（37.3%）
良かった	71 人（46.4%）
普通	14 人（9.2%）
少し難しかった	6 人（3.9%）
難しかった	1 人（0.6%）
無回答	4 人（2.6%）

③感想

記載の一部

- ネット依存はすべての子どもに関わりのある健康問題だと感じた。
- 身近な問題で、取り組んでいる施設はまだ少ないが、勉強の機会は多くあった方がよいと思った。
- 対策は、空き時間を少なくする、子どもの居場所づくり、生活リズムということ。社会全体の取組ができるとよい。

Ⅱ　平成 27 年度　看護大・上教大連携公開講座

テーマ　青年期・成人期の発達障害のある人への支援を目指して

日　時　平成 27 年 7 月 11 日(土) 13:30～15:30

場　所　上越教育大学　講 301 教室

話題提供者：能登　宏（新潟大学特任准教授）

日髙幸徳（新潟障害者職業センター主任障害者職業カウンセラー）

A さん（中越にお住いの当事者）

協　賛　上越職場の発達障害を考える会

講座の内容

上越教育大学加藤哲文教授の進行のもと、3 名の方から話題提供をしていただいたのち、トークセッションが行われた。

話題提供

能登宏氏からは、「合理的配慮」と法律的なこと、新潟大学の「特別修学サポートルーム」の実践について話題提供がなされた。「合理的配慮」とは、障害者の権利に関する条約第 2 条の「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの。」を言う。内閣府は基本指針に、合理的配慮の基本的な考え方として、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の表明があった場合に、本来の業務の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないことに留意し、社会的障壁を除去するための必要かつ合理的な取組(実施に伴う負担が過重でないもの)をすることを明示している。この方針を受け、新潟大学は、平成 26 年 4 月 1 日に学生支援センターに「障害学生支援部門」を立ち上げ、取組みを遂行するた

めの「特別修学サポートルーム」を設置し、特任教員 1 名を採用したという経緯が紹介された。新潟大学の「特別修学サポートルーム」の役割は、「障がいのある学生の向学心を支える」ことを目的として、「単位取得に関する対応」と「自立に向けた生活のための支援」である。具体的には、レポートの書き方と論文やレポート完成までのスケジュール管理、一緒に昼食を食べる場所の提供などを行っている。また、学生が大学を卒業・修了した後も 1 年間は、キャリアセンターと連携して就労支援を実施していることが報告された。

日髙幸徳氏からは、発達障害者への就労支援の現状について話題提供があった。障害者就業センターは全国にある公的機関である。障害者に対して、職業相談や職業評価、通所による職業準備支援、職場に出向き行うジョブコーチ支援、リワーク支援(復職支援)を行っている。また、事業所に対して、職務設定への助言や社員研修、関係機関に対して実習や共同支援を通して支援のノウハウの提供、各種研修の実施や協力を行っている。新潟県障害者職業センター平成 26 年度の利用者数は障害者全体で 681 人であり、その中で発達障害者は 188 人で全体の 3 割程度を占めている。支援内容は職業準備支援が 6 割と最も多く、その数は年々増加傾向である。利用者の中には一般職就職の方が求人も多く給料も高いため、障害を開示せずに就労する場合もあるが、仕事をする中でトラブルも多く、本人も努力が必要となり苦労も多い。障害を開示して支援を受けて障害者雇用や福祉的就労をしていくことで、賃金等は低いがサポートや配慮が受けやすく、その結果長く勤められることにつながる。障害を開示していくためにも、学生の頃から本人が障害を自覚できるような働きかけや、その現状を本人が認めて障害を受容し、支援を受け就職活動を行えるようにしていく必要がある。支援者は、学生個々の特性を理解し、学生と仕事内容、職場環境のマッチングを考えることが重要である。

障害者雇用は企業の法的義務であり、雇用割合は従業員の 2%と定められている。障害者就業センターは、企業が障害者を受け入れやすくするためにジョブコーチ支援などを行っている。このような人為的支援以外にも、職場環境や作業マニュアルの整備、接し方など対人関係の方法などの具体的な支援を行っている。また、就業してからも企業と情報を共有し、就労継続のためのフォローアップを行っている。

当事者の A さんは、ご自身の就労経験について話された。現在、障害者就労移行支援事業により就職し物流業の会社で作業員として働いている。最初は自分自身も自分の障害を認めず、健常者の中で頑張っていた。上司も自分に障害があるというようには思っていなかったようで、難しい仕事を任されることも多くなり仕事量が増えた。また、一度に多数の業務内容をこなさなければいけないときもあった。自分はそんなとき、なにを優先すべきか分からなくなってしまった。そのためミスもするようになった。そんな辛い面もあった。しかし、今は自分の障害を認めてそこから自分の道をいろんな選択肢の中から選んで進んで行った方が良いと考えている。それと、周りの人の話をちゃんと聞き自分よがりではなく柔軟に考え行動した方が良いと思う。今は、自分なりに仕事をしている。

参加者の状況

(1)参加者　200 人

(2)アンケート結果による評価

①アンケートの回収 157 人（78.5%）

②講師の話の全体的な感想

非常に良かった	78 人（49.7%）
良かった	68 人（43.3%）
普通	6 人（3.8%）
少し難しかった	1 人（0.6%）
難しかった	1 人（0.6%）
無回答	3 人（1.9%）

③感想の一部

・上越でどういう取り組み支援がなされているのか聞きたかった。
・家族や友達に発達障害がある時、どのように支援したらよいのか具体的な接し方を学びたかった。
・障害当事者の方の経験や思いが聞けて良かったです。
・今日はご本人の話がきけて良かったです。とても勇気のいることだったと思います。ありがとうございました。お二人の先生には生きる向上心の支えになって頂き感謝しています。
・社会ですでにこれだけの取組がされていることを知らなかったので勉強になった。当事者の方の話は身につまされるというか、聞けて本当によかった。

地域社会貢献部門

高林知佳子、大久保明子、安藤亮、天谷まり子、風間みえ、
内藤みほ、真貝早悠里、久保野裕子、安達寛人、伊藤ひかる

地域社会貢献部門では、地域住民の方々が気軽に大学に足を運び、健康について関心を寄せ、学び合う場を目指す「看護大いきいきサロン」を平成 21 年度から開催している。

Ⅰ　開催状況

平成 27 年度は、5 月から 11 月にかけて計 6 回、いずれも平日の夕方に開催した。講師は、上越地域で開業している医師、上越地域の病院の理学療法士や作業療法士、栄養士、上越市役所保健師、大学の教員とし、それぞれの専門とするテーマでの講演の後、地域住民の方々からの質問に答えてもらう時間を設けた。

平成 27 年度の参加者は 750 人であり、平成 21 年度から開始して、いきいきサロンの参加者は通算 4,002 人となった。

表 1　開催日時およびテーマ・講師と参加人数

回	日時	テーマ	講師	参加人数
第 1 回	5/21(木) 18:30～19:30	腰痛を予防するには?	新潟労災病院 中央リハビリテーション部 理学療法士 澤田小夜子先生 作業療法士 稲垣利重子先生	132 人
第 2 回	6/18(木) 18:30～19:30	今日からやってみよう糖尿病予防 －毎日の食事、再点検－	新潟県立看護大学 助教 小林綾子	139 人
第 3 回	7/16(木) 18:30～19:30	認知症なんてこわくない　「ぼけ」ても安心して暮らせるまちづくり	新潟県立看護大学 准教授　原等子	132 人
第 4 回	9/17(木) 18:30～19:30	日本人が食べてきた食事 －和食の良い所、悪い所を見直す－	上越地域医療センター病院 栄養士長　管理栄養士 水沢麻奈美先生	111 人
第 5 回	10/29(木) 18:30～19:30	最新の眼科医療で高齢者の眼病に立ち向かう	石田眼科医院 院長 石田誠夫先生	147 人
第 6 回	11/19(木) 18:30～19:30	介護予防は生活習慣病予防から	上越市役所 高齢者支援課係長 細谷早苗先生	89 人

Ⅱ　参加者のアンケート結果

1　参加者の年代・性別

60 歳代が 36%と最も多く、次いで 70 歳代が 29%、50 歳代が 17%であった。

性別では、男性が 29%、女性が 71%であった。

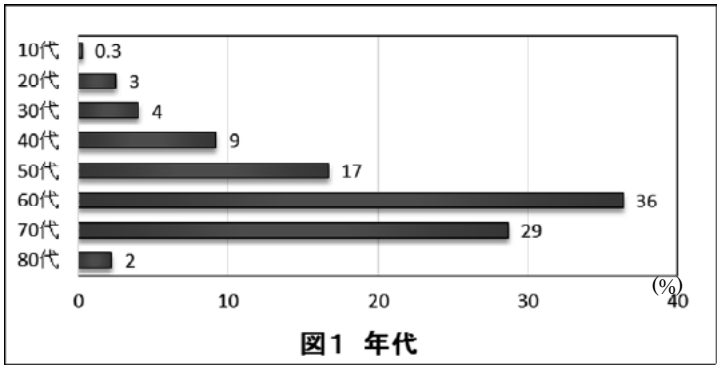


図1　年代

2　これまで参加した回数

これまでに 1～5 回参加したことがある人が 41%と最も多く、次いで初めて参加した人が 29%であった。

3　周知方法(複数回答)

「新聞広告」を見て参加した人が 197 人(32%)と最も多く、次いで「ポスター・チラシ」179 人(24%)、「市広報誌」116 人(21%)であった。一方、「ラジオ・テレビの宣伝を見て」参加した人は 1 名(0.2%)と少なかった。

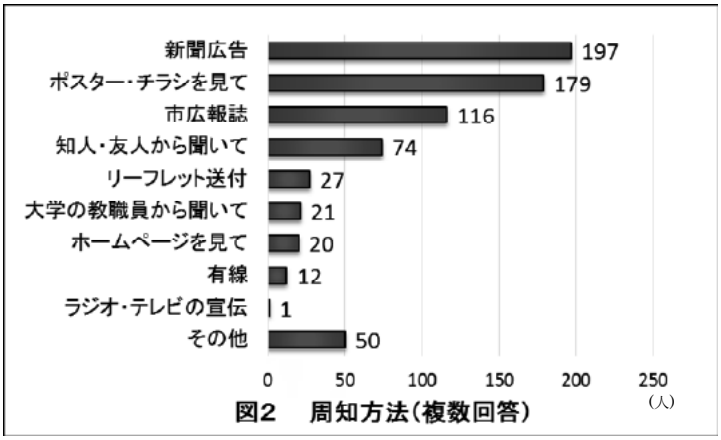


図2　周知方法(複数回答)

4　参加理由

参加理由では、「テーマに興味・関心があったから」が 469 人(76%)と最も多く、次いで「講師の話を聞きたかったから」が 137 人(22%)、「毎回参加しているから」が 103 人(17%)であった。

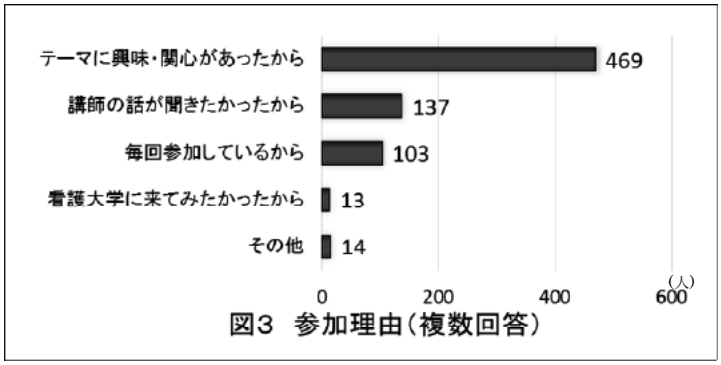


図3　参加理由(複数回答)

5　講師の話についての感想

全体では、「非常に良かった」と回答した人は 53%、「良かった」と回答した人は 41%であった。

6 回の講義ともに、8 割以上の人が「非常によかった」「よかった」と回答していた。

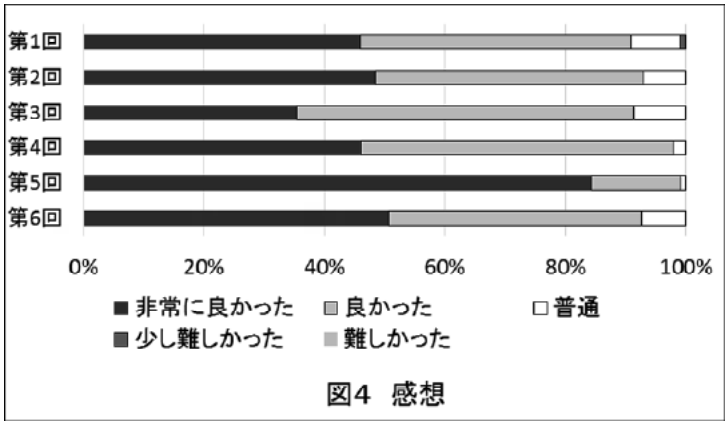


図4　感想

6　今後、とりあげてほしいテーマ

多かった項目は「ストレス」194 人、「認知症」186 人、「生活習慣病」159 人、「がんの話」137 人、「目の病気」114 人、「介護の話」108 人、等であった。

その他自由記載では、感染症、ひざの痛み、心臓、精神疾患、運動等、多くのテーマがあげられた。

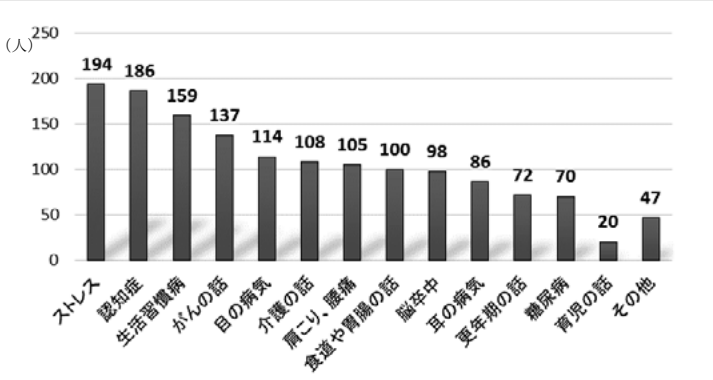


図5　今後とりあげてほしいテーマ

Ⅲ　いきいきサロンの運営

1　企画実行メンバー

地域社会貢献部門のメンバー9 名が主に企画と運営を行った。サロン通信の作成、新聞広告への掲載依頼、講師交渉と接待、参加者への景品の準備、当日運営等をそれぞれが役割分担して行った。

ポスター・チラシの作成・発送、講師資料の印刷、当日の受付等については、看護研究交流センター事務局の事務職員から、当日の会場準備は大学の事務職員から手伝ってもらった。

当日の運営では、学生アルバイト 2 名から、会場準備と受付を行ってもらった。

2　広報活動

看護研究交流センターの案内、リーフレットの発送、FM-J の出演(1 回)、看護大いきいきサロン通信の発行(2 回)の他、毎回実施前に、ポスター・チラシの作成と配布、大学ホームページでの情報公開、 NIC かわら版、上越タイムス「くびきの創信」、上越よみうり、上越 ASA ニュース、市広報誌への掲載を行った。

3　講師謝礼

学外からの講師には 1 回 1 万円および交通費を支払った。

4　参加者への接待

昨年と同様、参加者に対してお茶のサービスを行った。初回参加者には講義資料の保管用として看護大いきいきサロンと大学のロゴマークがついたファイルを配布した。また開始前にリラックスできるような音楽を流すことや、机にテーブルクロスをかけることで、サロンの雰囲気を出すための工夫を行った。また、サロンの最後に他のセンター事業等のお知らせと参加の呼びかけを行い、他部門の事業の宣伝も努めた。

Ⅳ　平成 27 年度の評価と今後の課題

27 年度は、過去最多の参加者数(750 人)であり、この 7 年間で通算 4,000 人を超えたことから、地域住民の方々に対する看護大いきいきサロンの周知度が高くなってきていると思われた。

一方、今年度 6 回開催したうちの 3 回は、参加者数が 130 人を超え、会場が満員となったため、参加者同士の座席間の余裕がとれない状態での開催となった。このため、今後は参加者数が多いことが予測されるテーマの際は、隣接しているホールとのパーテーションを外し、会場スペースを広くする等、参加者がゆったりと講師の話が聞ける会場づくりに努めていく必要がある。

また、今年度の参加者の 76%が「テーマに興味・関心があったから参加した」と回答していたことから、各回でとっているアンケート結果を参考にすると共に、健康に関する世の中の状況や動き等も考慮しながら、参加者がいきいきと生活していくことに役立つテーマを選定していくことが必要である。

また、講師に関しては、本学教員の協力を得ると共に、新聞、書籍、インターネット等の情報を活用しつつ、部門メンバーで情報交換を行いながら、地域のホームドクターをはじめ保健・医療・介護等の専門家に依頼を行っていきたいと考える。

資料 1－平成 27 年度いきいきサロン通信第 1 号

公立大学法人　新潟県立看護大学　看護研究交流センター　地域社会貢献部門

看護大いきいきサロン通信

第7巻　第1号　2015/5/21

いきいきサロンは本学で開催している地域住民の皆様が気軽に集えることを目的としたサロンです。毎回地域のホームドクターや医療･福祉の専門家、本学の教員等が様々なテーマについてお話をします。今年度も昨年度の皆様方からのお声をもとに企画をさせていただきました。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

講座はすべて木曜日の18：30からとなっています！
お申込みは不要です、どうぞお気軽にご参加ください。
ご参加いただいた方には資料を収めることができるクリアブックをお配りします。※数に限りがあります。

日時	テーマ	講師
6月18日（木） 18：30～19：30	今日からやってみよう　糖尿病予防 ー毎日の食事、再点検ー	新潟県立看護大学 助教　小林綾子先生
7月16日（木） 18：30～19：30	認知症なんてこわくない 「ぼけ」ても安心して暮らせるまちづくり	新潟県立看護大学 准教授　原 等子先生
9月17日（木） 18：30～19：30	日本人が食べてきた食事 「和食の良い所、悪い所を見直す」	上越地域医療センター病院 栄養室長　水沢麻奈美先生
10月29日（木） 18：30～19：30	最新の眼科医療で高齢者の眼病に 立ち向かう	石田眼科医院 院長　石田誠夫先生
11月19日（木） 18：30～19：30	介護予防は生活習慣病予防から	上越市役所高齢者支援課 主任保健師　細谷早苗先生

昨年度第4回「肩こりについて」の様子です！
平成26年度開催全6回の参加者は延べ649人、
平成21年度初回からの通算参加者は3,252人
となりました。
聞きたいテーマや気になっていることがある
方はお気軽にアンケートにお書きください。

資料 2－平成 27 年度いきいきサロン通信第 2 号

公立大学法人 新潟県立看護大学　　看護研究交流センター 地域社会貢献部門

看護大いきいきサロン通信

第7巻2号　2015/9/17　発行

看護大いきいきサロンでは地域のみなさまが健康で、いきいきとした生活をおくることを目的とした講座を開催しております。今年度のサロンも大盛況で 1 講座あたり 130 名を超える参加がありました。これまでに行われました第 1～3 回のサロンの様子をお伝えします。

第１回　腰痛を予防するには？（5/21）
講師：澤田小夜子先生（新潟労災病院中央ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部）
稲垣利重子先生（新潟労災病院中央ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部）

腰を痛めないために日頃から①姿勢に気をつける、②物を持つときは工夫する、③必要以上に腰をねじらない、④腰を温める、⑤太りすぎない、⑥体操する、ということが大切であり、運動についてはウォーキングもおすすめです。最後は参加者全員が音楽に合わせて、楽しみながら腰痛予防体操を行いました。

第２回　今日からやってみよう糖尿病予防―毎日の食事、再点検―(6/18)
講師：小林綾子先生（新潟県立看護大学）

同じ肉でも「バラ」から「モモ」へ部位を変える、「揚げる」から「ゆでる」へ調理方法を変えると摂取カロリーが抑えられます。また、食べる順番も野菜や海草からよく噛んでゆっくり食べるようにし、間食は乳製品やゆで卵など炭水化物の少ないものを選ぶと血糖値の急激な上昇を抑えられます。参加者からは、食品サンプルを用いて野菜や主食の量を目で見て確認でき、大変わかりやすかったなどの感想がありました。

第３回　認知症なんてこわくない
「ぼけ」ても安心して暮らせるまちづくり（7/16）
講師：原等子先生（新潟県立看護大学）

認知症の方の徘徊（はいかい）に関する事故を家族が完璧に防ぐことは難しく、地域の見守りや社会の取り組みで事故を防ぐことが大切です。迷っている方を見かけたら「どうしました？」「お困りですか？」など安心できる言葉をかけてください。参加者の関心が高く、もっとじっくり聞きたい、第２弾を開催してほしいという声が多くありました。

【今後の予定】

第４回 ９月 17 日（木） 18:30～19:30	日本人が食べてきた食事 「和食の良い所、悪い所を見直す」	上越地域医療センター病院 栄養士長 管理栄養士 水沢麻奈美 先生
第５回 10 月 29 日（木） 18:30～19:30	最新の眼科医療で高齢者の眼病に 立ち向かう	石田眼科医院 院長 石田誠夫 先生
第６回 11 月 19 日（木） 18:30～19:30	介護予防は生活習慣病予防から	上越市役所高齢者支援課 係長 細谷早苗 先生

お申し込みは不要ですので、お気軽にご参加下さい。
スタッフ一同、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

看護職学習支援部門

岡村典子、飯田智恵、高林知佳子、加賀美亜矢子、中澤紀代子、
石原千晶、髙塚麻由、川島良子、鬼形充智、大倉由貴

Ⅰ　本部門の事業目的

新潟県内、特に上越地域の看護職の総合的な資質向上を目指し、様々な学習および研修の機会を提供する。このことにより看護職の資質向上をはかり、県民のヘルスケアの充実を目指す。加えて、卒業生の卒後教育も視野に入れた看護職の復職支援を行う。

Ⅱ　平成 27 年度の事業の概要

今年度は、看護職向け公開講座(専門公開講座＝どこでもカレッジ公開講座)を 14 回開講(昨年度 14 回)、どこカレ通信の発行(4 回)、バーチャルカレッジの開講を継続して行った。本部門では、公開講座、およびバーチャルカレッジの 2 つの活動を「どこでもカレッジプロジェクト」と通称し、広報活動を行っている。以下に、事業の詳細を記す。

１．専門公開講座(どこでもカレッジ公開講座)

専門公開講座は 14 回(前年度 14 回)開講した(表 1　専門公開講座開催実績参照)。看護職向けとしているが、ほとんどの講座を、介護職を中心に多職種にも公開している。最新トピックスの講座 2 題は、参加条件を設けず一般参加も可能として開講した。長年、国際協力の仕事を民間企業として関わってこられた與座卓先生の「保健医療福祉分野の知識を活かして、国際協力の世界へ」の講座では、「自分の将来を具体化する材料になるほどに非常に価値のある講義だった」等の声が聞かれた。また、本学の境原三津夫先生の「看護ケアを科学する～オキシトシン効果～」は、平日の開催だったが 20 代から 60 代と幅広い年齢層の方が参加された。

その他、看護研究支援(5 題)、看護実践スキルアップ(7 題)の講座を開催した。看護研究支援では、本学の石田和子先生に「看護研究のテーマをみつけよう」、「さぁはじめよう看護研究」の 2 講座を担当いただき、「研究って楽しいかもと本当に前向きに思えました」、「自身の研究に直接アドバイスいただき大変参考になった」といった声が寄せられた。

看護実践スキルアップでは、毎年好評である ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムが今年度も開講され、修了生からは「現場で実践できる内容で充実していた」等の感想が聞かれた。また、近畿大学医学部附属病院の辰巳陽一先生をお招きした「Team STEPPS」の講座は、「自分がどういう行動をとればよいのか学ぶことができた」といった声が聞かれ、大変盛況であったことから次年度も開講を予定している。さらに、今年度は卒業生の支援も踏まえ、本学の原等子先生、髙島葉子先生の企画にて、「自分を活かし後輩を活かすプリセプター/パートナーシップのあり方」について、シンポジウム形式の会を開催することが出来た。参加者からは、「他病院の教育現場を聞けたので参考になった」等の感想があり、看護師養成課程卒業後の教育のあり方について話し合う有意義な機会となった。

また、昨年同様に新潟県看護協会と連携し、「就職していない看護職(保健師、助産師、看護師、准看護師)の再就職を支援」するための知識や技術を身につける講習会を実施した。講師陣は、臨床現場で活躍されている看護部長の他、セーフティマネージャー、感染看護認定看護師といった方々で、大変有意義な講習会を開催することが出来た。

表１　専門公開講座開催実績

区分	講座名	開催日	受講者数	金額	講師
最新トピックス	保健医療福祉分野の知識を活かして、国際協力の世界へ	5 月 30 日(土) 13:30～15:30	27	無料	㈱トウリュウ開発 代表取締役 與座卓先生
	看護ケアを科学する ～オキシトシン効果～	7 月 14 日(火) 10:30～12:00	22	無料	境原三津夫（本学）
看護研究支援	看護研究のテーマをみつけよう	6 月 27 日(土) 13:00～16:00	32	無料	石田和子（本学）
	文献検索の基本　～看護研究の論文を探す・入手する～	7 月 25 日(土) 13:30～15:30	21	無料	高林知佳子（本学） 吉原貴子（本学）
	さあはじめよう看護研究 ～研究計画書の書き方まで～	9 月 5 日(土) 13:00～16:00	21	無料	石田和子（本学）
	わかりやすいプレゼンテーションのやりかた	9 月 29 日(火) 10:00～15:30	6	2,000 円	永吉雅人（本学）
	エクセル統計処理	10 月 3 日(土) 10:00～16:00	9	2,000 円	橋本明浩（本学）
看護実践スキルアップ	助産外来・院内助産にも対応できる助産診断・技術学を再構築してみよう(妊娠・分娩期)	5 月 23 日(土) 10:30～16:00	18	2,000 円	髙島葉子（本学） 風間みえ（本学） 髙塚麻由（本学）
	患者の安全を高める Team STEPPS の導入	6 月 20 日(土) 10:00～16:00	65	2,000 円	近畿大学医学部附属病院 教授　辰巳陽一先生
	ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」	7 月 18 日(土) 9:15～17:20 7 月 19 日(日) 9:15～16:45	43	5,000 円	酒井禎子(本学・ELNEC-J 指導者)他
	呼吸のフィジカルアセスメント	9 月 12 日(土) 9:30～12:30	30	1,000 円	飯田智恵(本学)
	助産におけるセーフティマネージメント	10 月 16 日(金) 12:50～16:00	21	無料	中京大学法科大学院 教授　稲葉一人先生
	自分を活かし後輩を活かすプリセプター／パートナーシップのあり方	10 月 24 日(土) 13:00～16:00	28	無料	原　等子（本学） 髙島葉子（本学） 岡村典子（本学）
	高齢者の爪ケア	11 月 7 日(土) 10:00～16:00	30	2,000 円	新潟県立中央病院 慢性疾患看護 CNS 上原喜美子先生 糖尿病看護 CN 武田織枝先生

２．どこカレ通信

メイト*に対する公開講座やバーチャルカレッジの周知を目的に、どこカレ通信をメイト向けに発行している。内容は主に専門公開講座の開催案内や実施報告等を中心に 4 回発送した。実績については、別表(表 2　どこカレ通信発行実績一覧参照)に詳細を示した。

なお、本学のリポジトリ等に収録して広く公開している。

＊メイト

学びたい希望を持つ方々へ学習の機会を提供する「どこでもカレッジプロジェクト」では、ともに学習する人々をメイトと呼び、別途申請書による登録を行い、どこカレ通信をはじめ、公開講座、市民講座、大学院等の案内を送付した。

本年度新規加入は 13 名、退会 2 名、3 月末現在メイト登録数は 142 名である。

表 2　どこカレ通信発行実績一覧

	号名	発行日	送付部数	主な内容
1	29 号	6 月 5 日	136	近況報告と公開講座の案内、バーチャルカレッジ新コンテンツの紹介、大学院入試説明会等
2	30 号	8 月 5 日	137	近況報告と公開講座の案内、地域課題研究発表会の案内
3	31 号	10 月 9 日	139	近況報告と公開講座の案内、バーチャルカレッジの案内、地域課題研究公募のご案内
4	32 号	1 月 20 日	141	近況報告、メイト会員の紹介

３．バーチャルカレッジ

今年度は、専門公開講座の最新トピックスの一つである、與座卓先生の「保健医療福祉分野の知識を活かして、国際協力の世界へ」の内容について、バーチャルカレッジ公開への了承が得られた。現在、担当の部門員がビデオ編集を進めており、今後コース一覧にアップされる予定である。

また、バーチャルカレッジのプログラム見直しに向け、飯田副部門長をはじめ担当の部門員が、使用しているソフトウエア(moodle)について検討を進めており、より良い学習環境を目指し取り組んでいるところである。

４．その他

1)メイト獲得に向けた取り組み

今年度から、メイトにはどこでもカレッジ公開講座への先行申込み特典を設け、記載されている申込期間の一週間前から申し込みを可能とした。また、新規加入者を獲得するため、公開講座の際のメイト募集のパンフレット配布とともに、上記特典の内容を明記する等の取り組みを行った。

2)広報活動

広報活動として、看護交流センターの HP のリニューアルとともに、本部門の掲載内容も見やすくなり、こうした取り組みが公開講座等の広報につながったといえる。

資料 1－どこカレ通信 29 号

第 29 号　2015/ 6/ 5

どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター
「どこでもカレッジプロジェクト」は
看護師の学び直しを支援します。

新年度を迎えて早いもので 2 か月。季節は夏に向かっていきますね。

看護研究交流センターの HP がリニューアルされ、より見やすくなりました。一度といわず何度でも覗いていただければうれしいです。また、各公開講座の実施報告をホームページでも紹介することとなりました。どこカレ通信の紙面では紹介しきれなかったものも含めて、随時更新していきます。どこカレ通信も、引き続きご贔屓くださいませ。

５月に終了した公開講座の紹介

今年のどこカレ公開講座は全 14 講座。メイトさんは先行申込みが可能です。関心のある講座には是非早めにお申込みください。今年度より全講座の申込方法を、また、有料の講座については参加費の支払方法を変更しました。お手元の案内や看護研究交流センターHP でご確認ください。

□ 助産外来・院内助産にも対応できる助産診断・技術学を再構築してみよう　5/23 終了

今年度の公開講座第１弾は、本学助産学教員による講座でした。日頃の実践と理論が結びつき、今後のケアへの手ごたえを得ていただけたようです。

□ 保健医療福祉分野の知識を活かして、国際協力の世界へ（興座 卓先生）　5/30 終了

30 年に及ぶ国際協力活動で培った豊富な知識を、パワフルにお話しくださいました。「国際協力は単に支援する/されるという関係ではない。活動の中で途上国の人々に教えられることばかりだ」というお話しから、互いに“協力”することを意識し、よりよい社会を世界規模で実現することの重要性を感じました。

後日、動画を どこカレバーチャルカレッジで公開！（公開時期については HP 等でご確認ください）

６月～９月上旬の公開講座　(6/5 現在、受付中)

＜看護実践スキルアップ＞

■ **患者の安全を高めるTeamSTEPPS（チームステップス）の導入**
6/20（土）10：00～16：00
講師：近畿大学医学部附属病院 安全管理部教授
医療安全対策室 室長　辰巳 陽一 先生
定員：80 名　参加費：2,000 円

＜最新トピックス＞

■ **看護ケアを科学する ～オキシトシン効果～**
7/14（火）10：30～12：00
講師：新潟県立看護大学　境原 三津夫 教授
定員：40 名　参加費：無料

＜看護研究支援＞

■ **看護研究のテーマを見つけよう**
6/27（土）13：00～16：00
講師：新潟県立看護大学　石田 和子 教授
定員：80 名　参加費：無料

■ **文献検索の基本**
～看護研究の論文を探す・入手する～
7/25（土）13：30～15：30
講師：新潟県立看護大学 高林 知佳子 准教授
新潟県立看護大学　吉原 貴子 主任司書
定員：40 名　参加費：無料

■ **さあはじめよう看護研究**
～研究計画書の書き方まで～
9/5（土）13：00～16：00
講師：新潟県立看護大学　石田 和子 教授
定員：40 名　参加費：無料
※「看護研究のテーマをみつけよう」受講者のみ

7/18～19 の ELNEC－J 看護師教育プログラムは、定員に達しました。

バーチャルカレッジに追加された講座　New!

- 認知症の診断とケア　（川崎医科大学神経内科特任准教授、認知症疾患医療センター副センター長　片山 禎夫 先生）
- 看護研究のための EXCEL 統計解析入門（橋本 明浩 教授）
- インターネット検索技術入門（橋本 明浩 教授）
- 院内マニュアル～見易く使いやすいマニュアル作成入門～（橋本 明浩 教授）
- 自分の助産診断・技術学を再構築してみよう ～妊娠・分娩期～（高島 葉子 准教授ほか）

大学院（看護学研究科修士課程）入試説明会のご案内

日 時　6/27（土）16:00～17:00
＊事前申込み不要
場 所　新潟県立看護大学 第２ホール

大学院の各コースや入試に関する全体説明の他、個別相談会が行われます。大学院へ進学するかまでは明確ではないが聴いてみたいという方も、お気軽にお立ち寄りください。

同日開催のどこカレ公開講座「看護研究のテーマを見つけよう」の後、立ち寄ってみるのもいいですね。

連絡先：新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日 9：30～16：00）
住所：〒943-0147 上越市新南町 240　電話：025-526-2822（直通・FAX 兼）
E メール：nirin@niigata-cn.ac.jp　ホームページ：http://www.nirin.jp/

資料 2－どこカレ通信 30 号

暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。
この時期、「グリーンカーテン」などを使って暑さ対策をしている方も多いのではないでしょうか。大学でも「フウセンカズラ」のグリーンカーテンを設置しました。適度にエアコンなどを活用し、今年もエコで快適に夏を過ごしましょう。

終了した公開講座の紹介

患者の安全を高める TeamSTEPPS の導入

講師：近畿大学医学部附属病院　安全管理部教授
医療安全対策室室長　辰巳 陽一 先生　6/20 終了

辰巳先生のテンポのよさが"患者の安全を高める"という受講者全員の関心を引き寄せ、あっという間の一日となりました。受講者からは、「数日かけてじっくり学びたい」「シリーズで開催していただきたい」「第２弾を聞きたい」など、更なる学習の機会を望む声が多数寄せられ、改めて医療安全に対する皆様の関心の高さを実感しました。

看護研究のテーマをみつけよう

講師：成人看護学教授 石田 和子 先生　6/27 終了

臨床での看護研究の経験も豊富な石田先生より、看護研究の基礎からお話ししていただきました。受講者の感想では、「身近なところにもテーマがあることが分かった」「日常の“気づく”から始まるということが分かり、やる気がでた」「研究って楽しいかもと前向きに思えた」などの声が寄せられました。

9月～10月の公開講座

＜看護実践スキルアップ＞

呼吸のフィジカルアセスメント
9月12日（土）9：30～12：30
講師：新潟県立看護大学　飯田 智恵 講師
定員：30名　　参加費：1,000円

助産におけるセーフティマネージメント
10月16日（金）12：50～16：00
講師：中京大学法科大学院　稲葉 一人 教授
定員：50名　　参加費：無料

自分を活かし後輩を活かすプリセプター/パートナーシップのあり方
10月24日（土）13：00～16：00
講師：新潟県立看護大学 原　等子 准教授
岡村 典子 准教授
髙島 葉子 准教授
対象：卒後2～7年目の看護職
定員：50名　　参加費：無料

＜看護研究支援＞

わかりやすいプレゼンテーションのやりかた
9月29日（火）10：00～15：30
講師：新潟県立看護大学 永吉 雅人 准教授
定員：6名　　参加費：2,000円

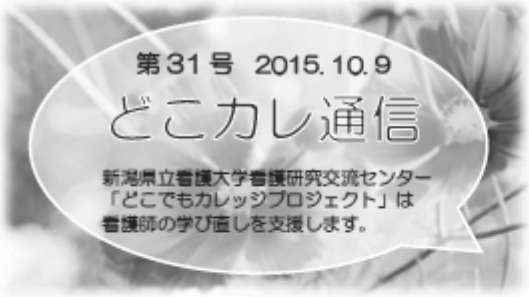
エクセル統計処理
10月3日（土）10：00～16：00
講師：新潟県立看護大学 橋本 明浩 教授
定員：12名　　参加費：2,000円

平成26年度　地域課題研究発表会のお知らせ

開催日：平成27年9月26日（土）13：15 ～15：50
場所：新潟県立看護大学　第1・2ホール　※午前は同会場で上越地域看護研究発表会が行われます。
県内の看護職と本学教員が共同して取り組んだ地域の看護実践における課題解決に向けた研究の発表会を開催いたします。合わせて、平成 26 年度特任講師実践活動報告会も開催いたします。参加費無料、事前申し込みは不要です。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

連絡先：新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日9：30～16：00）
住所：〒943-0147 上越市新南町 240　　電話：025-526-2822（直通・FAX 兼）
Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp　　ホームページ：http://www.nirin.jp/

資料 3－どこカレ通信 31 号



秋も深まって、さわやかな季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年度の公開講座もあとわずかになりましたが、是非、足をお運び頂き、皆様の学びを深めていただけたらと思います。

終了した公開講座の報告

９月５日に開催された公開講座は「さあはじめよう看護研究～研究計画書の書き方まで～」で、講師は本学成人看護学の石田和子教授でした。

参加者は２１名でした。看護研究の方法や研究計画書の書き方などを講演していただきました。参加者からは「よかった」と好評でした。「研究テーマの焦点がしぼれた」や「研究の楽しさが伝わってきて意欲がわきます」とご意見をいただきました。

９月 12 日に開催された公開講座は「呼吸のフィジカルアセスメント」でした。講師は本学成人看護学の飯田智恵講師でした。

参加者は３０名でした。講義と演習を交えて、呼吸のアセスメントに必要な知識や技術を学びました。参加者からは、「実際に自分の耳で呼吸音の違いを聞けてよかった」「良い勉強の機会となった」など好評でした。

１０月３日に開催された公開講座は「エクセル統計処理」でした。講師は本学情報科学の橋本明浩教授でした。

参加者は９名でした。エクセル統計の方法について演習なども行いながら学びました。参加者からは、「基本的なことがよく分かった」や「今回の講演で活用できると思った」など好評でした。

今後の公開講座

★助産におけるセーフティマネージメント
10 月 16 日（金）12：50～16：00
講師：中京大学法科大学院　稲葉一人 教授
参加費：無料

★自分を活かし後輩を活かす
プリセプター／パートナーシップのあり方
10 月 24 日（土）13：00～16：00
講師：新潟県立看護大学　原　等子 准教授
岡村典子 准教授
高島葉子 准教授
参加費：無料　　対象：卒後 2～7 年目

★高齢者のケア
11 月 7 日（土）10：00～16：00
好評により受付を終了しております。

看護研究交流センターの『バーチャルカレッジ』を利用していますか？

メイトに限らず、講座参加者のアンケートから、本センターの HP にアクセスされる方が少ないという結果が出ております。

メイトの特典であるインターネットを利用して、皆さんの都合に合わせて学習できる『バーチャルカレッジ』を是非ご利用ください。まずは！看護研究交流センターホームページをご覧ください。

※利用する際に必要な、ご自分の ID・パスワードが不明な方やお忘れの方は、下記連絡先までお問い合わせください。

平成２８年度地域課題研究公募中！

皆様の現場で抱えている疑問や関心事などを、本学の教員と一緒に研究してみませんか？

公募期間：平成 27 年 10 月 1 日(木)～
12 月 16 日(水)　※午後３時必着

＊１０万円を限度に助成金がでます。
＊看護研究交流センターHP より公募要領・必要書類を入手できます。

連絡先：新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日９：30～16：00）
〒943-0147 上越市新南町 240　　電話：025-526-2822（直通・FAX 兼）
Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp　　ホームページ：http://www.nirin.jp/

資料 4－どこカレ通信 32 号

新しい年を迎え、いかがお過ごしでしょうか。
昨年中は皆さま方のご協力のもと、おかげさまで計画通り、公開講座を開催することができました。秋以降の公開講座のなかから、いくつか講座の様子を掲載いたしましたのでどうぞご覧ください。

今後も皆さまのご希望に添えますよう努力してまいります。本年もよろしくお願いいたします。

終了した公開講座の紹介

□ 助産におけるセーフティマネージメント

（稲葉一人先生）10/16 開催

裁判官、対話推進者などなど数多くの経験を積んでこられた先生から、医療現場における事故や訴訟問題、看護者として知っておくべき法律についてなど学ぶ機会となりました。法律用語はちょっと苦手…と思う方は多いでしょうが、講義修了時には、予見義務、回避義務など、大事なことをしっかりと理解し、持ち帰ることができました。

□ 高齢者の爪ケア

（上原喜美子先生、武田織枝先生）11/7 開催

臨床経験豊富なお二人の先生をお迎えし、爪ケアについて講義、実技をとおして実際的な爪ケアについて学習しました。受講後のアンケートには、今まで行ってきた方法に間違っていた部分があることに気がついたという声や、自分の感覚だけでやっていたが肥厚爪・巻き爪の処理がわかった、など爪ケアの方法について、多くのことを学びました。

□ 自分を活かし後輩を活かすプリセプター/パートナーシップのあり方　10/24 開催

新潟県内の 6 施設よりパネリストを迎え、ディスカッション、グループワークにより意見をかわしました。参加者からはコミュニケーション能力を高めて信頼関係を築くことの大切さ、後輩との関わりでは分からないことや悩みを引き出し、一緒に確認していくことの重要性などといった声が聞かれました。悩みを共有しながら他の人のよい実践を学びあえました。

お知らせ

平成 28 年度 公開講座 準備中!!

只今、平成 28 年度開催の公開講座の詳細を練っているところです。4 月上旬頃、公開講座一覧のご案内がお手元に届く予定です。関心あるテーマを見つけましたら、年間計画に盛り込んでいただき、奮ってご応募くださいませ!

メイト会員の特典

会員先行申し込み!!

今年度より各講座への申し込み期間が設けられました。また、メイト会員は申し込み開始日より 1 週間早くお申し込みいただけるようになっています! 次回の受講申し込みの機会に是非、メイト会員へのご登録をおすすめします!

✿ 編集後記…今年度も無事 14 講座を開催でき、看護職支援事業の役割を果せたことにほっとしています。
次年度も皆さまのお役に立てるよう案を練りに練っておりますので、どうぞご期待くださいませ!! ✿✿✿

連絡先：新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日 9：30～16：00）
住所：〒943-0147 上越市新南町 240　電話：025-526-2822（直通・FAX 兼）
E メール：nirin@niigata-cn.ac.jp　ホームページ：http://www.nirin.jp/

地域課題研究開発部門

飯吉令枝、石田和子、山岸まなほ、井上智代、北村千章

Ⅰ本部門の事業目的

大学職員と地域の医療機関看護職員の共同研究である地域課題研究や、上越地域の看護研究の発表の場である上越地域看護研究発表会の開催を担う。

Ⅱ活動概要

1. 平成 27 年度上越地域看護研究発表会の開催

上越地域の看護職の連携を図る目的で、新潟県立看護大学看護研究交流センターと新潟県上越地域振興局健康福祉環境部の共催で開催した。

1) 上越地域看護研究発表会の準備

発表会開催にあたり、新潟県上越地域振興局健康福祉環境部が窓口となり上越地域の病院の看護師 8 名を加えた実行委員会が編成され、発表会前に 2 回(5 月 25 日と 7 月 30 日)の委員会が開催された。実行委員会では、会の企画と今後の進め方および当日の役割分担を検討した。演題の査読を新潟県立看護大学地域課題研究開発部門が担当した。

2) 平成 27 年度上越地域看護研究発表会（平成 27 年 9 月 26 日(土) 9：30～12：10)

昨年度に引き続きテーマは「やる気が見える!!上越の看護」とし、新潟県立看護大学第 1、2 ホールで、すべて口演形式で実施した。演題は 14 題、参加者は 127 名であった。

また業者の協力を得て、当日は展示ブースを設けた。

当日のプログラムは以下の通りであった。

口演　第 1 群　 9：40～10：20

座長　飯塚俊子（上越地域振興局健康福祉環境部)

A-1　ALS 患者の退院支援に関する実態調査
～人工呼吸器装着から在宅ケア移行までの関わり～
○五十嵐千絵(上越総合病院)

A-2　神経難病における在宅服薬コンプライアンスの実態
～様々な状況に応じた服薬行動への援助を考える～
○宮澤啓子(さいがた医療センター)

A-3　在宅療養に不安のある腹膜透析患者の退院支援
○内藤彩(新潟労災病院)

A-4　患者視点に立った経口レスキュー麻薬自己管理の導入
○平井正博(上越地域医療センター病院)

口演　第 2 群　 10：20～10：50

座長　荒梅法雄（川室記念病院)

B-1　精神科における高齢終末期患者の家族への援助を考える
～連絡ノートを活用して家族の心情に寄り添う～
○白川初恵(川室記念病院)

B-2　園芸療法を導入した病棟活動の取り組み～QOL の向上をめざして～
○楠木秀美(高田西城病院)

B-3　食欲低下のある老年期のうつ病患者に対し食事補食表を用いた事による看護師の意識変化と得られた効果
○八木智春(三交病院)

口演　第 3 群　　11：00～11：40

座長　石田和子（新潟県立看護大学)

C-1　外来化学療法に従事する看護師の抗がん剤取り扱いと曝露防止策
～蛍光剤を使用した曝露の可視化を行って～　○加納亜矢(上越総合病院)

C-2　褥婦の希望する授乳援助を考える～アンケート調査を実施して～
○杉本美幸(糸魚川総合病院)

C-3　施設職員が動けるインフルエンザ対策マニュアルの検討
○柴田明子(介護老人保健施設くびきの)

C-4　教育ニード・学習ニードの実態調査を反映したキャリア開発プログラムの見直し
○虻川美香子(新潟労災病院)

口演　第 4 群　　11：40～12：10

座長　岩崎昭徳（上越総合病院)

D-1　手術室看護師の手術室看護に対する意識調査　○丸山惠(新潟労災病院)

D-2　慢性肺気腫終末期患者の在宅生活を実現させた退院調整と退院後カンファレンス
○上原喜美子(県立中央病院)

D-3　A 病院の救急外来における小児の受診の現状と取り組み
○岡田千恵子(県立中央病院)

3) 上越地域看護研究発表会のアンケート結果および実行委員会での反省・評価

(1) アンケート結果

アンケート回収数は 85 名で回収率 66.9%であった。

初めて参加した人が 49 名(57.6%)で、発表会を何で知ったかでは「職場の回覧」が 33 名(35.1%)と最も多く、次いで「ポスター・チラシ」28 名(29.8%)、「上司に勧められた」26 名(27.7%)であった。参加動機は「上司に勧められたから」と「開催地・会場が上越だったから」が共に 24 名(17.5%)と最も多かった。

発表については「適切だった」が 78 名(91.8%)で、満足度は「満足」「やや満足」が 76 名(89.4%)あった。感想・意見として、「現場ならではのテーマがとても興味深かった」「多くの発表を聞き、これからの看護に役立てていこうと思う」といった声が多く聞かれた。その一方発表時間については、「8 分の発表時間を厳守した方がいい」「発表時間におされて質問時間が確保できないのは残念なことだと思う」との声が聞かれ、発表時間の厳守が今後の課題となった。

(2) 実行委員会反省会

発表会後に 1 回(11 月 26 日)の委員会が開催された。今年度は看護部長会議に演題申し込み忘れがないかの確認をした施設もあり、参加者は昨年より 14 名多かった。老人保健施設から初めて演題が出されるなど範囲が広がったことや、施設からの発表者から「自信につながった。他の看護職との交流ができてよかった」との感想が聞かれたと報告があり、次年度も上越地域の病院と合わせて施設や今年度発表がなかった産業分野にも演題申し込みを促していくこととなった。

なお平成 28 年度は 9 月 24 日(土)に開催することとなった。

2. 平成 26 年度地域課題研究発表会の開催

地域課題研究発表会と合わせて、今年度新潟県立看護大学から任命された 3 名の特任講師による特任講師実践活動報告を同時に開催した。

昨年同様、上越地域看護研究発表会と同日に開催した。地域課題研究発表会の演題は 8 題、参加者は 79 名であった。

1) 地域課題研究発表会・新潟県立看護大学特任講師実践活動報告会

(平成 27 年 9 月 26 日(土) 13:15～15:50)

特任講師実践活動報告

座長　　石田 和子 (新潟県立看護大学)

1. がん看護専門看護師活動報告－緩和ケアセンターの立ちあげを中心に－
　　柏木 夕香 (新潟県立がんセンター新潟病院 がん看護 CNS)
2. 4 年間の OCNS 活動報告
　　星野 めぐみ ((独)労働者健康福祉機構新潟労災病院 がん看護 CNS)
3. がん看護専門看護師活動報告－看護部教育活動を中心に－
　　丸山 美香 (新潟県立がんセンター新潟病院 がん看護 CNS)

地域課題研究発表

＜第 1 群＞　　座長　　北村 千章 (新潟県立看護大学)

1. A 病院における看護・介護職の研究に対する認識と今後の支援体制の検討
　　水原郷病院　高松 真美
2. 静脈血栓塞栓症予防のための看護ケアに関する知識と看護実践の実態と課題
　　長岡赤十字病院　長澤 聡子
3. 心臓リハビリテーション導入患者の QOL 向上を目指して
　－SF-36 v2 調査から見えてくる課題と展望－
　　新潟県厚生連糸魚川総合病院　田原 純一
4. 内視鏡による検査・治療過程において看護師が感じる危険因子
　　新潟医療生活協同組合 木戸病院　宮島 さおり

＜第 2 群＞　　座長　　井上 智代 (新潟県立看護大学)

5. 混合病棟で勤務する看護師の終末期ケアに対する困難感とやりがい
　　新潟医療生活協同組合 木戸病院　関根 愛実
6. 新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭き取りに切り替えた効果
　　新潟県厚生連上越総合病院　坂詰 朱美
7. 上越地域における透析患者支援状況の実態調査
　－介護支援専門員へのアンケート調査から－
　　(独)労働者健康福祉機構新潟労災病院　飯田 明美
8. 認知症高齢者の生活リズムを整える取り組み
　　新潟県立柿崎病院　新保 憲一

2) 地域課題研究のアンケート結果および部門内での反省・評価

(1) アンケート結果

アンケート回収数は 43 名で回収率 54.4%であった。

初めて参加した人が 26 名(60.4%)で、参加動機は「共同研究者になっているから」が 15 名と最も多く、次いで「演題・プログラムに興味があったから」が 12 名であった。満足度は「満足」「やや満足」が 39 名(90.7%)あった。感想・意見として、「現場でぜひ参考にさせていただきたい」「大学の先生と一緒に研究ができてうらやましい」などの意見が出された。また、中間で実施した特任講師実践活動報告会については、「県内のがん CNS の活動がよくわかった」「がん CNS に興味をもった」などが出された。その一方で「せっかくの研究発表会なのでもっとたくさん集まるとよいと感じた」との意見も数名からあげられた。

(2)部門内での反省会

昨年度より参加者数が 13 名増加したが、午前のみで帰る参加者も多く、参加者の確保が今後の課題である。

3.　平成 27 年度地域課題研究の申請状況

11 件の地域課題研究の申請が採択された。そのうち 3 件辞退があり 8 件の研究が進行中である。

申請者	所属	学内教員	研究テーマ
金井ちづる	新潟労災病院	酒井禎子	糖尿病患者の冬期間の運動療法に関する実態調査
小池陽平	新潟労災病院	石田和子	がん患者の精神的苦痛に対する評価－緩和ケア認定看護師介入前後の STAS-J スコアを比較して－
村田悦子	新潟労災病院	原　等子	息子による介護と退院支援に関する研究
小宮山陽子	新潟県立中央病院	岡村典子	プリセプター制度の現状と課題
鬼形聖子	新潟県立中央病院	石田和子	PNS 導入による患者満足度への影響
青木美佐子	新潟県立中央病院	高島葉子	切迫早産の入院治療により長期臥床を要する妊婦が求める看護ケア
佐々木美奈子	新潟県立精神医療センター	後田　穣	精神科病院における精神科看護技術と職業経験評価に関する実態調査
神保佳枝	長岡赤十字病院	髙柳智子	急性期脳血管障害患者の看護計画に FIM を導入した効果

4. 平成 28 年度地域課題研究の応募

作成した公募要領を新潟県内の保健・医療・福祉関係(約 500 か所)に郵送するとともに、新潟県立看護大学看護研究交流センターホームページに掲載し、地域課題研究公募の広報活動を行った。

公募期間中(平成 27 年 10 月 1 日(木)～12 月 16 日(水))に 4 件の公募があり、平成 27 年 12 月 16 日(水)～平成 28 年 2 月 1 日(月)まで再公募を行うこととなった。

Ⅲ　平成 27 年度の評価と今後の課題

1. 上越地域看護研究発表会、地域課題研究発表会について

上越地域看護研究発表会、地域課題研究発表会はともに参加者が昨年より増加したが、できるだけ多くの人から参加してもらえるよう、広報活動を引き続き行っていく必要がある。また、発表者が発表時間を厳守できるよう、発表者自身が演題で残りの時間がわかるようなタイマー付きの時計を演台に置くことを検討していく必要がある。

2. 平成 28 年度地域課題研究の応募について

公募締め切りまでに 4 件の応募しかなく、昨年度同様再公募を行うこととなった。多くの施設から応募してもらえるよう、さらなる広報活動を行っていく必要がある。

特別研究部門

永吉雅人、平澤則子、加城貴美子、野村憲一、髙栁智子、原等子、飯吉令枝、酒井禎子、
髙島葉子、エルダトン・サイモン、小林綾子、山田真衣、井上智代

Ⅰ　特別研究部門の経過

特別研究部門は、2010 年(平成 22 年)1 月に上越で行われた移動知事室において本学渡邉学長から「都会で生活している人たちが、上越地域の自然に触れ、人々と交流しながら健康な生活と安心できる福祉を考えるきっかけをつくる事業」としてメディカルグリーンツーリズムが提案され、平成 22 年度より活動を開始している。昨年度より、「メディカルグリーンツーリズム」、「卒業生支援」、「地域政策課題」の 3 つの研究グループでもって活動している。

Ⅱ　各研究グループの活動

次章より平成 27 年度特別研究部門の活動報告として、「メディカルグリーンツーリズム」、「卒業生支援」、「地域政策課題」について、それぞれの主たる担当メンバーが報告する。なお、メディカルグリーンツーリズムの活動としては、次章記載の他に妙高市の「妙高型健康保養地推進事業」において、エビデンス(証拠)の蓄積を担う健康プログラムの結果分析・記録を行ったことを書き加えたい。

特別研究部門では、例年のことであるが、研究ということもあり予定通りに進まないことが多くあった。また、予定通りに進んでいない。それにも関わらず、粘り強く活動頂いている各グループリーダーをはじめメンバーの皆様、またご理解とご協力を頂いている本学看護研究交流センター関係者の皆様に感謝申し上げる。最後に地域の皆様のご協力に改めて感謝申し上げる。

1 メディカルグリーンツーリズム

小林綾子、山田真衣、酒井禎子、永吉雅人

1)　はじめに

メディカルグリーンツーリズムは看護研究交流センターの特別研究部門事業として、平成 26 年度開業予定の北陸新幹線の活用を視野に入れ、平成 22 年度から始められた。この事業は、上越・妙高地域の自然環境と医療・看護・福祉に関する資源を用いて、都市部と農山漁村に暮らす人々の交流から、地域の活性化と「双方の人々の健康」を目指している。

平成 27 年度は、妙高市の気候療法を取り入れた運動教室の効果について調査を実施した。気候療法とは、日常生活とは異なった気候環境に転地し、病気の治療や保養を行う自然療法(大塚、2012)と言われている。気候療法そのものの、気温や温泉、中・高山気候や地形、海洋性気候や海水が身体に及ぼす影響がある(新村ら、2013　新村ら、2011)一方で、気候療法をきっかけに生活に運動を根付かせ、身体的な側面から効果がみられた報告(宮地ら、2010　荒川ら、2008　後藤ら、2006　赤嶺ら、2005)はいくつか見られている。妙高市では、健康な市民を対象として、気候療法を取り入れた健康教室を、平成 25 年度から開催している。しかし、参加者の身体的効果は予測されるが、実際にはどの程度効果がみられているのか分析されておらず課題となっていた。

そこで、今年度の健康教室参加者に対し、妙高市の気候療法を取り入れた運動教室に参加することでの身体的変化と運動の習慣化について、＜身体的側面＞と＜運動の習慣化＞の測定を行い、健康教室の効果を示した。

2)　平成 27 年度　健康教室の概略

○実施日：平成 27 年(2015 年)6 月 1 日(月)から 7 月 31 日(金)

○行程等：週 2 回(月曜日・金曜日)、8：15～12：15　全 10 回コース

○プログラム：気候療法ウォーキング(図 2)、温泉療法、健康講話、軽体操の中から毎回組み合わせを変えて実施

○参加者：妙高市に在住の、生活習慣予備軍であり、生活習慣病を予防したいと考えている方

○主　催：妙高市

○協　力：新潟県立看護大学看護研究交流センター

図 1　測定の様子

図 2　気候療法ウォーキングの様子

3)　身体機能及び運動の習慣化に関する測定方法と評価

(1) 身体的側面の測定と評価

教室初日と最終日に、参加者の BMI、腹囲、体脂肪率、内臓脂肪、筋レベル(全身・腕・脚)を測定(図 1)し、その値について、対応のあるデータとして t 検定を行い、有意差を分析した。

(2) 運動の習慣化に関する測定と評価

参加者に、起床時から就寝まで身体活動量計を付けて過ごしてもらい、歩数/日と METS・時/日を測定した。そして、6 月と 7 月で、歩数/日の平均値と、METS・時/日の平均値算出し、対応のある t 検定を行った。

また、アンケートにより運動習慣への意識について回答を得た。アンケートは、教室初日と最終日で、項目ごとに回答の割合を算出した。また、初日と最終日の共通の問いであった 4 項目について、とても感じる 5 点、やや感じる 4 点、感じる 3 点、あまり感じない 2 点、感じない 1 点とし、初日と最終日で、対応のある t 検定を行なった。

(3) 運動習慣への意識についてのアンケートの内容

このアンケート用紙は、運動の習慣化への意識を問うもので、参加者には、初日と最終日に記載を依頼した。初日のみの質問は、日頃心がけている運動の有無であった。最終日のみ、これからも運動を続けていけそうかについて質問した。初日、最終日とも共通の問いは、「運動することに興味を持っているか」、「運動することに楽しさを感じるか」、「天気に左右されず運動ができそうと感じているか」、「運動する仲間がいるかどうか」であった。

4)　結果および考察

(1) 教室参加者の概要

参加者は、15 人で、男性 3 人(20%)、女性 12 人(80%)、年齢は 69.4±4.9 歳であった。年齢の内訳は 60 歳代 8 人(53%)、70 歳代 7 人(47%)であった。

初めて教室に参加した者は 5 人(33%)、2 回目 3 人(20%)、3 回目以上 5 人(33%)、未記入 2 人(14%)であった。運動をふだんから心がけて行っている者は 11 人(73%)、行っていない 3 人(20%)、未記入 1 人(7%)であった。

(2) 身体的側面の変化

参加者 15 人のうち健康教室の最終日に欠席した 3 人を除く 12 人(80%)の、教室初日と最終日の BMI、腹囲、体脂肪率、内臓脂肪、筋レベル(全身・腕・脚)について対応のあるデータ

としてt検定を行い、有意差について分析した。

結果､体脂肪率は初日 29.6±8.2%､最終日 27.1±8.9%と有意な低下がみられた(p＜.05%)。内臓脂肪は、初日 75.3±30.3、最終日 68.0±26.3 と有意な低下がみられた(p＜.05%)。また、筋レベル(全身)は、初日 4.5±2.2、最終日 5.0±2.0、筋レベル(腕)は、初日 4.6±1.8、最終日 5.0±1.8 とどちらも有意な上昇がみられた(p＜.05%)。BMI、腹囲、筋レベル(脚)は有意な差はみられなかった。

参加者の体脂肪率と内臓脂肪の低下および、全身と腕の筋レベルが上昇しており、妙高市の気候療法(傾斜のある場所でのウォーキング)・温泉療法は、参加者の身体面に効果があることが明らかとなった。

(3) 運動の習慣化への取り組み

参加者 15 人のうち、6 月、7 月と継続して協力の得られた参加者 13 人(87%)について分析した。6 月の歩数/日の平均値は、6374±2090 歩、7 月の歩数/日の平均値は 6408±2184 歩であり有意差はみられなかった。また、6 月の METS・時/日の平均値は、6.0±3.0、7 月の METS・時/日の平均値は、5.5±3.2 であり有意差はみられなかった。

参加者の平均歩数/日は、全国平均歩数とほぼ同様、身体活動量は厚生労働省の推奨値を上回っていたことや、歩数と METS・時/日の月による有意な差はみられなかったことから、参加者は、日頃から運動することを心がけ、実践していたと推察された。

(4) 運動への意識についてのアンケート結果

参加者 15 人のうち健康教室の最終日に欠席した 3 人を除く 12 人(80%)の教室初日と最終日の運動に関するアンケートについて分析した(図 3)

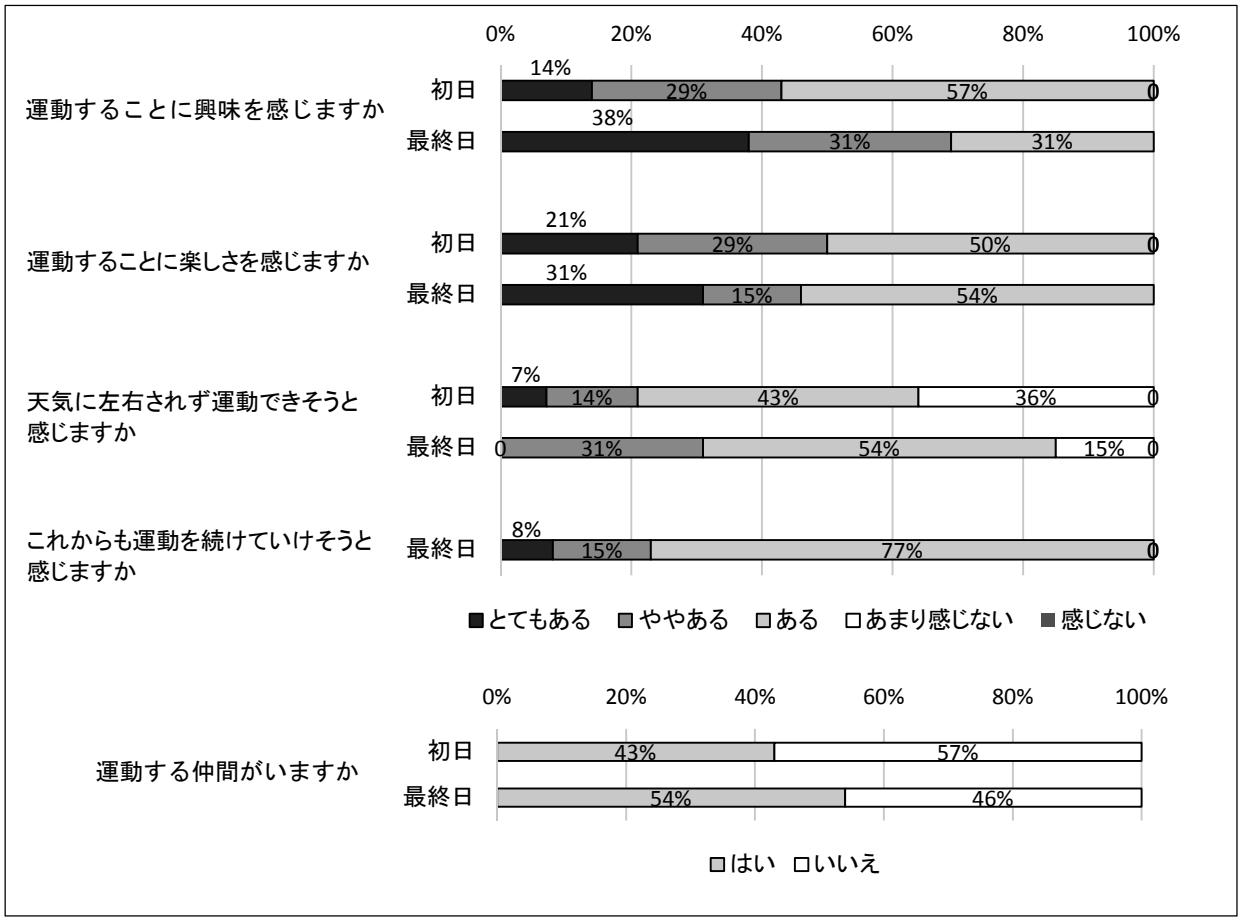


図 3　運動への意識についてのアンケート結果

初日と最終日の共通の問いであった 4 項目について対応のある t 検定を行なったところ、「運動することに興味がありますか」は教室初日 3.6 点、最終日 4.1 点と、運動への興味は、最終日の方が有意に上昇していた(p＜.05%)。

アンケートの結果から、運動への興味・楽しさについて、「とてもある」「ややある」「ある」のみの回答であったことや、教室への参加回数も 2 回目以上が、参加者の半数を占めていたことから、参加者は、もともと運動に興味を持っており、楽しいと捉えていたことが明らかとなった。

また、最終日には、運動への興味が「とてもある」の割合が増えていたことから、気候療法をとりいれた教室での体験が参加者の運動への興味を高めることにつながった可能性があると思われた。加えて、最終日の測定で、参加者が、自身の身体的な変化や筋力の向上を数値で見たことは、運動への興味を高めた可能性がある。

これらのことから、妙高市の気候療法を取り入れた運動教室は、身体的な効果があり、運動習慣を定着していくきっかけとなることが推察された。

謝辞

妙高市から、身体活動量計の測定やアンケート調査に協力に関する説明時間確保および身体活動量計の回収にご協力を頂いた。特に余野等氏(妙高市市役所 健康保険課 健康保養地係)には御世話になった。また、大学内外からも御協力をいただいた皆様に深く感謝いたします。

文献

赤嶺卓哉、山中隆夫、田口信教：中高年に対する水中運動と温泉浴の効果について．日本温泉気象物理医学会雑誌，68(3)，175-180，2005.

荒川雅志，木村純，田中秀樹，他：沖縄海水運動療法によるメタボリック危険因子の改善効果．体力科学，57(6)，891，2008.

大塚吉則：気候療法．日本生気象学会雑誌，49(1)，5-10，2012.

上岡洋晴，岡田真平：温泉利用と生活・運動指導を組み合わせた総合的健康教育の有効性に関する研究．日本温泉気象物理医学会雑誌，66(4)，239-248，2003.

後藤茂，岩男裕二郎，森山操，他：町営温泉健康施設と連携した水中運動療法の生活習慣病に対する効果．日本温泉気象物理医学会雑誌，69(2)，121-127，2006.

新村哲夫，田中朋子，金木潤，他：長期・継続的な海洋深層水運動よくの皮膚状態に及ぼす影響　クロスオーバー試験による検討．富山県衛生研究所年報，36，80-84，2013.

新村哲夫，田中朋子，金木潤，他：海洋深層水の歩行浴が酸素消費量と深部体温に及ぼす影響．富山県衛生研究所年報，33，127-131，2010.

宮地正典，木下藤寿，阿岸祐幸：森林環境下の運動療法と温泉療法を併用したプログラムにより身体機能、QOL の向上．日本温泉気象物理医学会雑誌，74(1)，50-51，2010.

2　卒業生支援

髙島葉子、永吉雅人、エルダトン・サイモン、原等子、加城貴美子

1) 卒業生支援研究グループの活動目的

本研究グループは意味のある卒業生支援につなげるために、卒後動向の把握および支援ニーズを明らかにすることを目的として、2014 年度より特別研究部門に新たに発足し、活動している。

2) 活動概要

前年度より調査協力について協議を続けてきた同窓会長が交代したことによって、全卒業生への調査を実施することが困難となった。そのため、全卒業生への調査を断念し、協力許諾を得ている卒業生に限定して調査することを検討している。協力許諾は 2014 年度の卒業

生から得ているものであり、2014 年度と 2015 年度を合わせて 67 名となる。したがって、全卒業生を対象としていた調査趣旨、内容は前計画書を見直し、「早期離職(看護職の離脱・就職場所の変更など)」の予防を意識した支援ニーズという視点にする必要がある。

3 地域政策課題

髙栁智子、野村憲一、飯吉令枝、井上智代、平澤則子

1) 豪雪・医療過疎地域に暮らす人々の食生活に関する実態調査

平成 26 年度に長岡市栃尾支所市民生活課保健師と共同で実施し、調査票作成、データ分析および調査報告書の作成を担当した。さらに、調査結果をもとに同支所保健師と当該地域の保健活動について協議した。

平成 27 年度に入り、上記報告書は冊子化され、同支所内の関連機関に資料として配布された。

2) 平成 27 年活動概要

4 月に新潟県内の関連行政機関に当グループのチラシを配布し、広報活動に努めた。その結果、2 件の問い合わせがあり対応したが、いずれとも共同事業としての合意に至らなかった。